

東通村に“TOKYO2020聖火トーチ”がやってきた!

7月5日、役場庁舎に“東京オリンピック2020”の東通村から選ばれた聖火ランナーが来庁しました。

村田睦夫さん(上田屋)、西山範仁さん(白糠)、大屋文一さん(むつ市・村職員)の3人は聖火ランナーに応募し、見事選ばれた方々です。

一生に一度あるかどうかという経験をされた3人が、村の為にトーチをお貸し下さり、小学校・中学校・こども園・診療所・体育館・役場庁舎へ展示させていただくことになりました。



トーチを掲げる大屋さん㊦、村田さん㊧、西山さん㊨

村田さん・大屋さんは、むつ市を走る予定でしたが、中止となり、青森市の海浜公園で行われたセレモニーで30mを走行し、西山さんは、おいらせ町を200m走行しました。

3人は、「感動した。30mでも走れて非常に嬉しかった」(村田さん)、「こんな経験できるなんて夢のようでした」(大屋さん)、「とても楽しかった。沿道から声を掛けられて有名になった気分」(西山さん)とそれぞれ感想を話してくれました。

今回の展示については、「実際に学生の皆さんに見てもらって、笑顔と元気を贈ることができたらうれしい。子供たちが、将来オリンピックを目指したいと思ってもらうキッカケになれば」と、3人も仰っており、自分たちが体験した事を、少しでも伝えたいという想いが伝わってきました。

7月12日、東通小学校のロビーにトーチとユニフォームが展示され、児童達が実際に触って写真を撮りました。小学生児童たちは、「ちょっと重くて、持って走るのは大変そうだった」、「村の方が実際に走ったこと、そのトーチを持たせてくれたことは一生自慢できることだと思った」と感想を話してくれました。

7月16日からは、東通中学校に展示され、生徒たちは「地元からランナーが出て嬉しい。本物に触れて貴重な体験ができた」と話してくれました。7月26日からは、こども園ひがしどおりに展示されています。



畑中稔朗村長に対し、想いを話す聖火ランナー3人



トーチを前にし、興味を示す小学生児童たち



本物のトーチに感激する中学生生徒